

NPO朝日訴訟の会

〒700-0054 岡山市北区下伊福西町1-53 (岡山県社保協内) tel(086)255-1299



新井章氏(当時の主任代理人)が当時を振り返る

50年ぶりに裁判資料に“再会”して

「国民が裁判官に“正解”を書かせる」

専門計画の柱 若い世代への継承へ力を

ニュース第9号

2015.3.10



当時の裁判記録を手に記念講演する新井章先生



「安倍政権は昨年(2014)の7月1日に集団的自衛権行使容認を決定した。60年前の7月1日に自衛隊が発足した。現在は朝日訴訟の前夜と同じ」と訴える朝日健二さん。

2月14日、NPO朝日訴訟の会は岡山市内で第10回総会を開催し、85人が参加しました。この総会には、東京や奈良、大阪、愛媛などからも参加があり、講師の新井章先生(朝日訴訟主任代理人)の「朝日訴訟記録を“発見”して」との講演に熱心に耳を傾けました。新井章先生は講演のなかで、50年ぶりに自宅に眠っていた「朝日訴訟記録」を読み返して、当時の手書きの準備書面や証拠書類作成の苦労を思い出し、原告・弁護団の奮闘ぶりに涙がこみ上げてきた、と感慨し、「第1審判決の内容の素晴らしさにあらためて感動した。裁判は、裁判官に対して国民・原告が主張するような『正解』を書くよう迫るといふ面がある。人間性あふれる憲法感覚にすぐれた判決を書かせるために国民の大きな声が求められる」と語りました。また、憲法25条のいう「最低限度の生活」の基準は厚生大臣(当時)の判断に委ねられるようなものではなく、明確な基準が示されるべきだ、との立場から第1審判決が書かれていることを大きく評価し、「人間裁判」ともよばれるようになった朝日訴訟の意義についても強調しました。

記念講演後、川谷事務局長から総会議案が提案され、その中で、今年度事業計画として会員の拡大、特に若い世代への継承に力をいれること、そのために「朝日学校」(仮)を開催する、全国でたたかわれている生活保護切捨て反対裁判を支援する、DVD「人間裁判」を普及する、などが提案され全員の拍手で承認されました。また、岩間現会長ら12人の理事も再任されました。

すいれん舎から

裁判資料を贈呈される



すいれん舎から寄贈された「朝日訴訟記録集」

記念講演で新井先生が紹介した当時の裁判記録を書籍化した「生存権裁判資料Ⅲ」が「すいれん舎」から刊行され、2セットをNPO朝日訴訟の会に寄贈していただきました。

